

暮らしの中の木材

第8回 化粧する木材

木材利用部 平松 靖

部屋の中をグルッと見まわすと、どんな材料が目に入りますか？ 鉄、アルミ、プラスチック、ガラス、木材など、住まいの中には実に様々な材料が使われています。さて木材は、どこに使われているのでしょうか。床、柱、壁、天井、階段、テーブル、椅子、棚、食器など、至る所に木材が使われています。最近の住宅内装には、これまで以上に統一感を求める嗜好が強く、それは木材にとっても同じです。例えば、洋室ではフローリングをはじめ、ドアや枠材などの建具はブナやナラの木目を生かしてコーディネートしています。これらの表面には突板（シリーズ第6回）や樹脂シートを貼りつけて、木目や色合いを見栄えよくしていますが、その中身は全く異なった材料という場合が多いのです。その中身の 하나가、木質材料です。

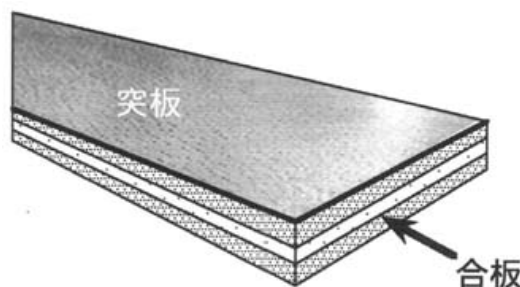
木質材料を製造するには、原料である木材の節や腐れなどを除去したり分散させるため、一端木材を小さくします。小さくすると一口でいつでも、木材を挽いたり薄く剥いて板状にしたり、粉々にして繊維状やチップ状にしたり、その方法は千差万別です。このように、いろいろな方法で小さくされた木材のことをエレメントと呼びます。このエレメントを再び組み合わせることによって、原木からは得られない広い面材や長大材を造ることができます。こうして作られたものを木質材料といい、集成材、合板、繊維板などがあります。集成材は、板状の木材を繊維方向が互いに平行になるようにして接着したものです。集成材には、美しい木目の突板を貼り付け化粧性をよくしたものや、板材の積層による素地の美観を生かして化粧貼りすることなく使われるものがあります。そのため、階段の手摺や笠木、出窓のカウンター、テーブルの天板などで目にする機会があります。合板は、薄く剥いた木材を繊維方向が互いに直角になるようにして接着したものです。合板は、素材に比べて広い面積が得られること、強度的に優れ人や家具を支えるのに十分な荷重保持力があること、適度な弾力性が人に心地よい歩行感を与えることが特徴です。フローリング材の多くは、

合板の表面にナラなどの突板を貼り付けています。繊維板は、木材を粉々にして繊維状にしたものを成型したものです。とりわけ、密度が350～800kg/m³のものを中密度繊維板（Medium Density Fiberboard, MDF）と呼びます。MDFは、表面が平滑かつ緻密でしかも加工性がよいので、ドアや窓の枠材の曲面加工による装飾にも適しています。MDFの表面には、床やドアなどの建具と色・柄をそろえやすいこと、曲面でも貼りやすいことから突板の代わりに樹脂シートを使うことがよくあります。

木質材料は、小径材や廃材を有効に用いることができる材料です。普段私たちの目に直接触れることの少ない木質材料ですが、その優れた性能や木質資源の有効利用という観点から、今後なおいっそう注目されることでしょう。



集成材の素地を活かした天板



合板に突板を貼ったフローリング材合板